

進捗状況の概要

本年度（平成 27 年度）は、本補助事業の活動を実質的にスタートさせること及び昨年度の活動を充実させることを念頭に活動を行い、以下の成果を得た。4 つの重点実施項目別に述べる。

【教員研修】

教員を対象とする講演会や研修会・勉強会で、より実践的な内容としてアクティブ・ラーニングスキル・授業設計法などの情報やワーク・ショップを提供することにより、各教員の担当する授業でアクティブ・ラーニング要素の導入を促進することができた。

【カリキュラム開発】

3 種類の授業スタイル（アクティブ・ラーニング型授業・PBL・マイペース完全習得学習）からなる教育システムの実現に向けて、次の取組を実施した。

教員が授業設計シートを作成し、アクティブ・ラーニング型授業のカリキュラム開発を進めることができた。PBL 型授業については、PBL 教育の到達目標案及び PBL を授業に組み込むための時間割モデルを各学科に提示し、来年度以降の時間割に組み込んだ。マイペース完全習得学習は、モデルコースを作成できたこと等により、運用の準備が整った。

【インフラ・支援体制整備】

アクティブ・ラーニングを効果的に実施するためのインフラ整備として、アクティブ・ラーニング教室及び普通教室の ICT 化を実施した。そのほか、クリッカーの導入、学生所有の情報端末を校内無線 LAN に安全に接続するための整備を実施した。また、インストラクター研修を受講した教員が各学科等で 2 名以上となり、アクティブ・ラーニングを推進するための勉強会や FD 活動を、きめ細かく実施するための準備が整った。

【情報発信】

アクティブ・ラーニング研究フォーラムにおいて公開授業を実施したことにより、アクティブ・ラーニング型授業の実践例を外部及び校内の教員と共有できた。

以上の取組により、アクティブ・ラーニング型授業を増やし、より多くの学生に能動的・双方向的な授業を提供することができた。取組内容の評価・改善を行うにあたり、年度末（2 月）に学生のジェネリックスキル測定テストを実施した結果、昨年度よりジェネリックスキル、特にコンピテンシー（周囲の環境と良い関係を築く力）が向上していることが確認できた。このことは、これまでの取組等により授業へのアクティブ・ラーニング導入が進み、グループワーク等の学生間コミュニケーションが増えたことが影響していると考えられる。